

研究課題番号	1-1909
研究課題名	建物エネルギーモデルとモニタリングによる炭素排出量・人工排熱量の高精度な推計手法の開発
研究実施期間	令和元年度～令和3年度
研究機関名	埼玉県環境科学国際センター
研究代表者名	原 政之

## 1. 委員の指摘及び提言概要

サブテーマ間の連携が明確であり、所期の成果を得ている。CO<sub>2</sub>と熱排出の起源を数十キロの分解能で推定できるシステムを開発できたこと、新型コロナウイルス感染症対策期間のCO<sub>2</sub>排出の影響を評価したこと等、当初の計画を超えた成果も得られている。査読付き論文の発表、国民との科学・技術対話、メディア発信も良くできている。現状は埼玉県に限っているが、埼玉県DXビジョンロードマップなどに行政的貢献も果たしている。埼玉県以外でも有効活用できるように、他の自治体でのやりやすさも考慮し、全国に展開できるモデルとその運用を期待する。また、同位体測定による結果の活用に関して更なる検討を行い、引き続き推計システムの検証に努め、更に科学的に信頼できるシステム構築に向けて検討を続けて頂きたい。

## 2. 採点結果

評価ランク：A